

公開実用 昭和61- 75693

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭61-75693

⑤ Int. Cl. 4	識別記号	庁内整理番号	⑬ 公開 昭和61年(1986)5月21日
H 04 R 5/027 1/00	H A B 1 0 1	Z-7734-5D 7314-5D 7359-2G 7359-2G	
// G 01 H 3/00 17/00			審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 音響測定用ダミーヘッドマイクロホン装置

⑮ 実 願 昭59-161659

⑯ 出 願 昭59(1984)10月24日

⑰ 考 案 者 加 藤 慎 治 郎 川越市大字山田字西町25番地1 バイオニア株式会社川越工場内

⑱ 考 案 者 好 美 敏 和 川越市大字山田字西町25番地1 バイオニア株式会社川越工場内

⑲ 出 願 人 バイオニア株式会社 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 小 橋 信 淳 外1名

明 細 書

1. 考案の名称 音響測定用ダミーヘッドマイ
クロホン装置

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) ダミーヘッド中にマイクロホンカプセルを装
備した音響測定用ダミーヘッドマイクロホン装置
において、ヘッドバンドで連結された左右のイヤ
ーパッドと、このイヤーパーッド中に収容された吸
湿剤とを備え、ダミーヘッド中のマイクロホンカ
プセルを湿気から保護した構成にしたことを特徴
とする音響測定用ダミーヘッドマイクロホン装置。

3. 考案の詳細な説明

【産業上の利用分野】

この考案は音響測定用ダミーヘッドマイクロホ
ン装置に関し、さらに詳しくは、スピーカなどの
音響機器の周波数特性などを測定する音響測定用
ダミーヘッドマイクロホン装置に関する。

【従来の技術】

従来知られている代表的ダミーヘッドマイクロ
ホン装置は、人体模型における頭部中にマイクロ

ホンカプセルを収容し、耳道から導き入れられる音を擬似耳としてのマイクロホンカプセルが感じ、これを音響的に測定できる構成になっている。

【解決しようとする問題点】

上述のようなダミーヘッドマイクロホン装置では、マイクロホンカプセルの振動板が湿気の影響を受け易く、測定結果が湿度により著しく変化して、平均値的な測定結果を得ることができない。

そこで、ダミーヘッドマイクロホン装置全体を防湿容器中に格納することが理想的ではあるが、容器が大形となり、かつ、大量の吸湿剤が必要となるので、ダミーヘッドマイクロホンを構成するマイクロホンカプセル1だけを取り出して、吸湿剤2を収容した容器3に格納して振動板を湿気から保護しているのが現実である（第4図）。

【問題点を解決するための手段】

上述のような問題点を解決するために、この考案はヘッドバンドで連結される左右のイヤープッド中に吸湿剤を収容してダミーヘッド中のマイクロホンカプセルが湿気の影響を受けないように構

成したことを特徴とするものである。

【実施例】

以下、この考案の構成を添付した第1図ないし、第3図に示す実施例によって説明する。先ず、第1図はこの考案による音響測定用ダミーヘッドマイクロホン装置10を示し、符号11は人体を模倣したダミーヘッドを示していて、このダミーヘッド11の左右両側にダミーイヤ12、12が形成されている。このダミーイヤ12、12はダミーヘッド11の内部空間と通じており、その内容空間中にはマイクロホンカプセル13が収容され、カプラー14を介して外部と通じてダミーとしての聴覚が形成されている。

そして、前記ダミーイヤ12、12には、ヘッドホン型のイヤークッション20が被せられており、左右のイヤークッション20は縮径方向に常時作用しているヘッドバンド21によって連結されている。

このイヤークッション20は硬質プラスチック製のシェル22と、そのシェル22の開口縁に沿って施されている柔らかなクッション23とによって構成さ

れており、シェル22の内部はメッシュ材24に分割されて、メッシュ材24とシェル22との空間には吸湿剤のバック25が収容された構成になっている。

また、ヘッドパッド20は、必ずしもクッション23を必要とせず、シェル22全体を軟質のプラスチックで成形し、その開放端縁の形成を第3図に示すようにリム22aをつけることでもよい。

したがって、この考案の音響測定用ダミーヘッドマイクロホン装置は、測定作業に使用する場合には、イヤerpパッド20を取除いてダミーイヤ12、12を解放するのであるが、このダミーヘッドマイクロホン装置を格納する場合には、ダミーイヤ12、12にイヤerpパッド20を被せ、頭部空間をイヤerpパッド20により閉塞状態にする。これにより、頭部空間中の湿気はイヤerpパッド20中に収容されている吸湿剤により除去され、マイクロホンカプセル湿気から保護される。

【考案の効果】

以上の説明から明らかなように、この考案の音響測定用ダミーヘッドマイクロホン装置は、イヤ

ーパッド中に吸湿剤を収容し、このイヤーパーパッドでダミー聴覚であるダミーヘッド内部空間の開放口を被うように構成したから、ダミーヘッドの内部空間に収容されたマイクロホンカプセルを湿気から護ることができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案による音響測定用ダミーヘッドマイクロホン装置の正面図、第2図は第1図Ⅱ部拡大断面図、第3図は他の実施例による第2図相当断面図、第4図は従来行われている湿気対策を示す説明断面図である。

10…ダミーヘッドマイクロホン装置

11…ダミーヘッド、12…ダミーイヤ

13…マイクロホンカプセル、14…カブラ

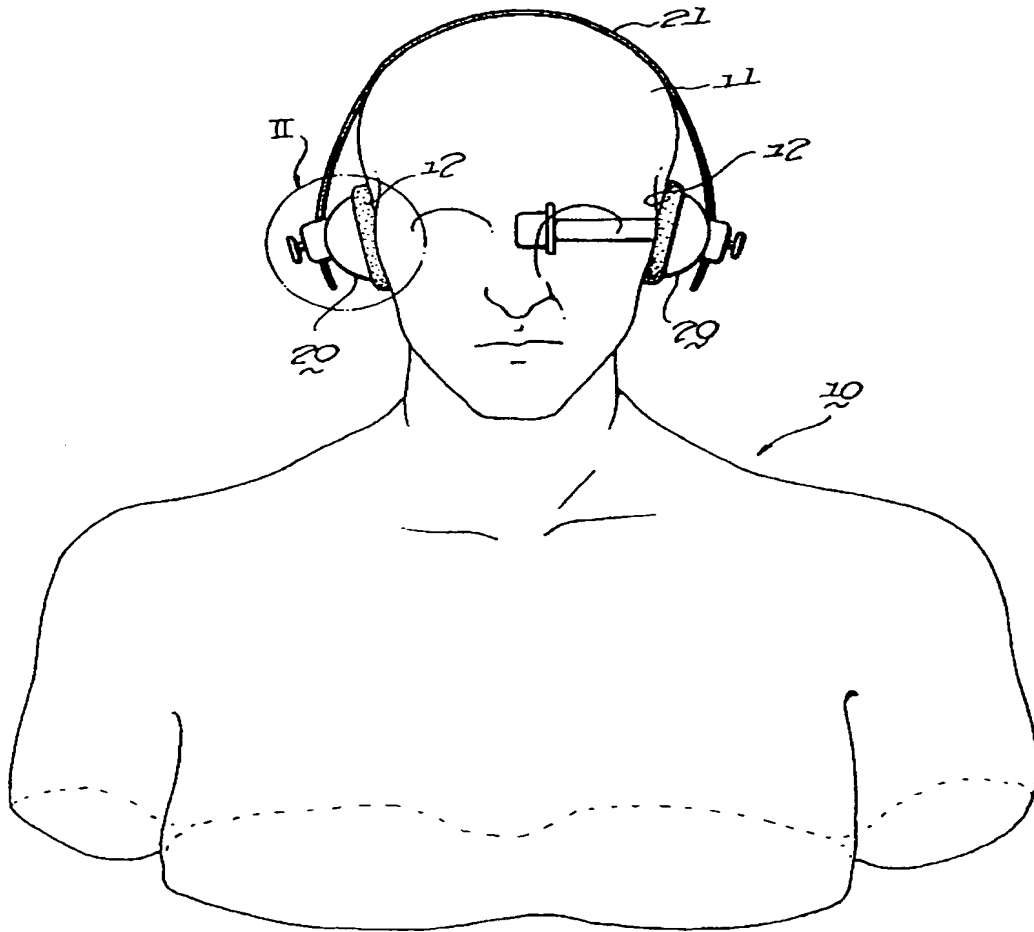
20…イヤーパーパッド、21…ヘッドバンド

22…シェル、23…クッション

24…メッシュ、25…吸湿材のパック。



第1図



1016

実開61-75693

代理人 弁理士 小橋 信 淳ほか1名

図24

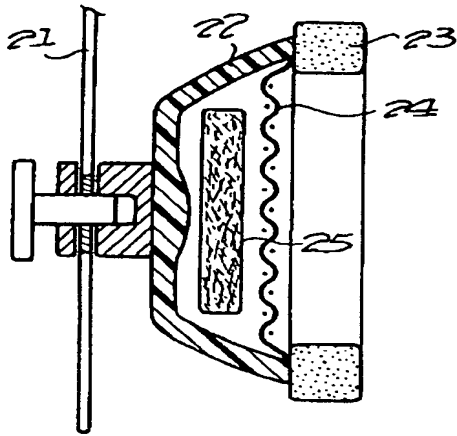
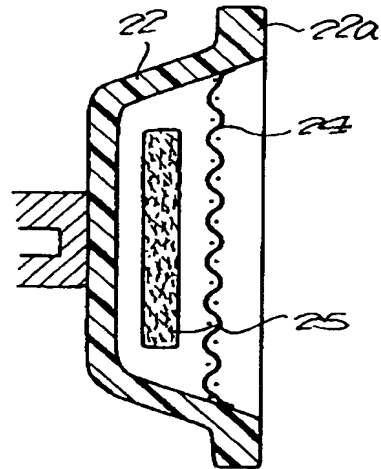


図23

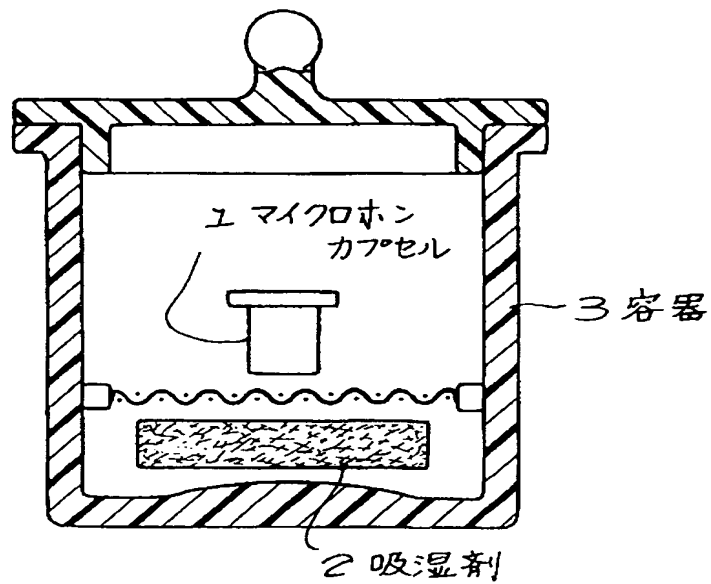


1017

実開61-75693

公開実用 昭和61- 75693

図4



1018

実開61-75693

図4